

# 焼

四年 12  
 筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 オン シヨウ  
 シヨウ  
 やりくりける

成り立ち



↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌

「世」は「世(349)」と同じ意味の字です。「堯」は「世」と「ル(人)」とを組み合わせた字で、「この世をせおっている徳の高い人」を表した字です。「この世を明るく照らす」人のことですから(大むかしの中国で、一番よい世の中を作った天子の名を「堯」と言いました)。「火でこの世を明るく照らす」という意味の字です。今は、その意味は「照」が表しており、「火を燃やす」という意味は「燃(579)」が表していますので、「焼」は「焼く」「焼ける」という使い方をしています。

「漢字の成り立ちからすれば、「燃」を「やく」と読み、「焼」を「もやす」と読んだ方が当たっている。」

使い方

▽今年の夏休みは、海に行って真っ黒に日焼けしました。  
 △近所の家が火事で焼けてしまいました。焼けあとから、三人の人の焼死体が見つかりました。火事は、本当にこわいから、みなさんも火の元には気をつけましょう。くれぐれも火遊びなどは、しないように。

熟語例

▽焼死(火事などで、焼け死ぬこと)。  
 △焼失(焼けて、なくなること。「火事で二軒の建物が焼失した」などというふうに、つかいます)。  
 △全焼(火事で、建物などが全部焼けてしまうこと。「全焼した家が十軒もあった」などというふうに、つかいます)。  
 △半焼(全部でなくて、半分焼けること)。  
 △延焼(火事が火元から、ほかの建物に燃え広がること)。  
 △類焼(別のところで起きた火事で、そこも焼けること)。  
 △焼香(香をたくこと。とくに仏前で香をたいて、死者を供養すること)。

使い方

▽赤い色は血を象徴しています。  
 △水じょう気が水滴になる現象を知っていますか。

熟語例

▽巨象(大きな象。巨大な象)  
 △象形文字(物の形をかたどって作った文字)  
 △象徴(形を持たないものの特徴を、目に見える形で表したもののシンボル)  
 △形象(形すがた。「光の中に、動物や物の形象が浮かび出るようにした装置」などと、つかいます)。  
 △具象(形やすがたを備えていること。「具象化」といえば、形の無かったものを、何かの形に表してみせることをいいます)。(㊦「抽象」)  
 △抽象(個々の事柄から、共通した性質を抜き出して、形の無い一つ概念にまとめること。「抽象的」といえば、形を持たないこと、物に即していないことをいいます。たとえば、「正義」とか「幸福」とかいうのが「抽象的概念」というものです)。  
 △現象(現れた形やすがた。ある物事が、形となって現れたもの)

# 象

四年 12  
 筆順 ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 オン シヨウ・ゾウ  
 シヨウ

成り立ち



↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌  
 ↓ ㇀ ㇁ ㇂ ㇃ ㇄ ㇅ ㇆ ㇇ ㇈ ㇉ ㇊ ㇋ ㇌

鼻の長い、耳の大きな「象」の形を表した字です。「象」という動物のことを表した字です。(例)巨象。「象の形を「かたどった」字」であるところから、「かたどる(形に表す)」という意味に使います。(例)象形文字、象徴。

「形」すがた「様子」などの意味にも使われます。(例)形象、具象、抽象、現象。また、「物」の意味にも使われます。(例)万象、対象。